



おんせん県おおいたで
農業参入しませんか



大分県は新たに農業を始める企業や
県外農業法人の参入を応援しています！

企業の農業参入 ガイドブック

大分県農林水産部
新規就業・経営体支援課

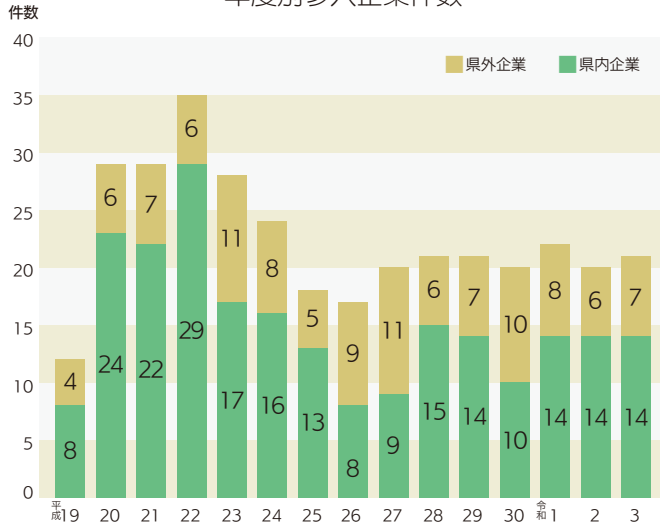




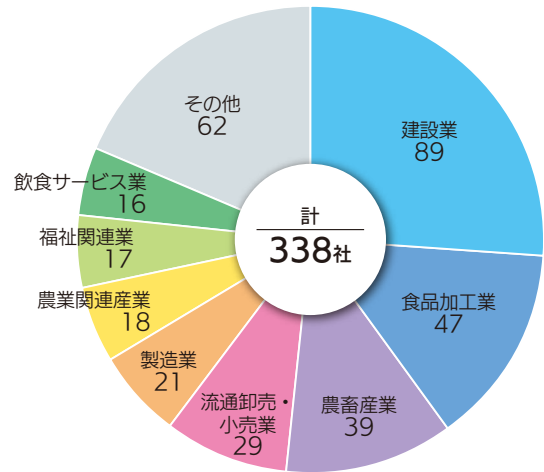
農業参入の実績

大分県では平成19年度から異業種企業の農業参入や県外農業法人の誘致を積極的に進めています。これまでに幅広い業種から様々な品目（野菜・果樹・畜産など）へ300社を超える参入実績があります。

年度別参入企業件数



参入企業の業種



農業参入の事例

この他の参入事例はこちらから→



株式会社大分サンヨーフーズ

(杵築市)

経営規模

ゆず、うめ、大麦若葉等
30ha

参入企業の業態

食品製造業

取組の特徴

食品製造を行う企業が「食」の原点は「農」にあるとの考えから、2008年に農業参入。杵築市内のみかん荒廃園を整備し、ゆず・うめの栽培を開始した。

生産した農産物は加工用原料として、自社の関連会社やその他加工会社等へ販売している。

地元雇用や独自の収穫祭開催等、地域との交流を積極的に行うことにより、農地の新たな借入や地元生産者との契約栽培（大麦若葉）といった事業拡大がスムーズに行われている。



株式会社オーエス豊後大野ファーム

(豊後大野市)

経営規模

白ねぎ
16ha

参入企業の業態

貿易事務代行業、人材派遣業

取組の特徴

主事業である半導体関連の請負事業は繁忙期と閑散期の差が大きいため、景気サイクルが異なる異業種への参入を検討していた。県が生産振興に力を入れている品目のうち、周年栽培が可能である白ねぎを選択し、2008年に豊後大野市へ参入した。

その後、経営面積を段階的に拡大し、参入から5年で売上高1億円を達成。

2019年から農林水産省『スマート農業技術の開発・実証プロジェクト』に大分県と共同で取り組み、積極的に新技術の導入と生産の効率化を進めている。





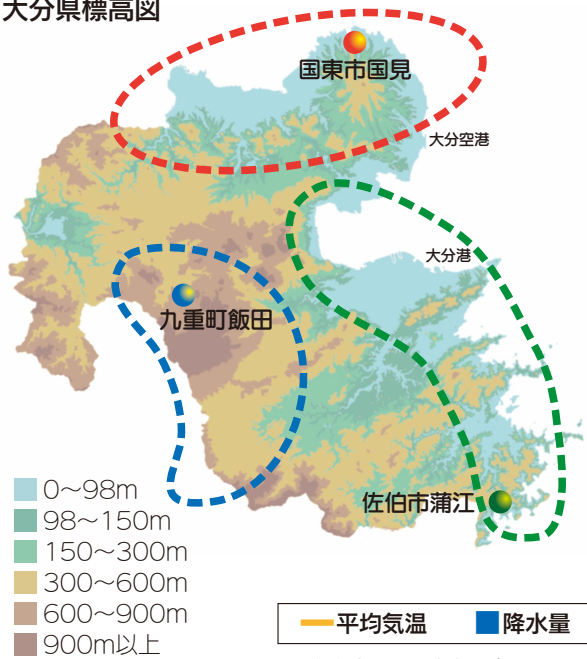
大分県の特徴

大分県は九州北部に位置し、北は福岡県、南は宮崎県、西は熊本県に隣接しています。

総面積の7割を山林が占め、九州本土で最も高い山がある一方、沿岸部は瀬戸内気候に属する温暖で過ごしやすい地域であり、変化に富む自然環境が特徴です。

そのため、平均気温が東北地方並みの高原における野菜栽培や夏冬の気温差が小さい沿岸部での施設園芸など、一つの県の中でさまざまな品目や作型の栽培が可能です。

大分県標高図



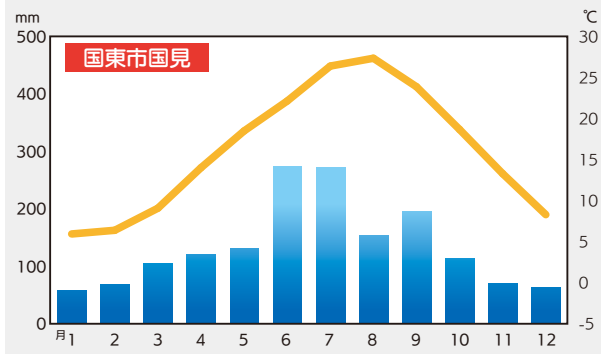
※気象庁及び県試験場データより

温暖少雨の北部地域

瀬戸内気候区に属し、
温暖で雨が少なめ。
冬は曇りが多い。



施設園芸、白ねぎ、果樹、
水稲、麦大豆 など

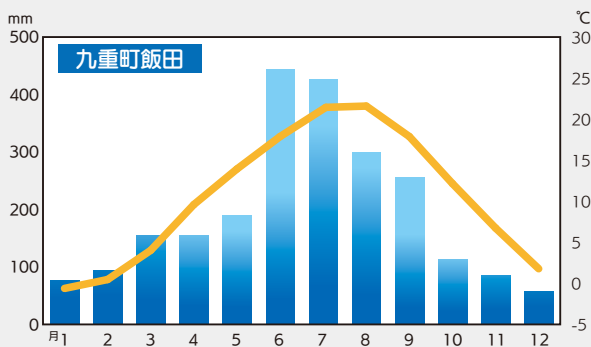


冷涼な高標高地

夏は冷涼。
雷雨が多い。



露地野菜、夏秋ねぎ
夏秋トマト など

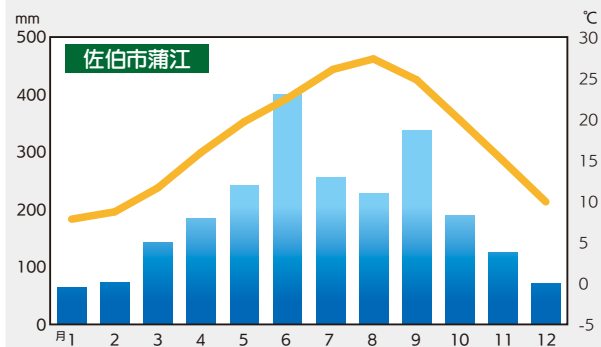


温暖な沿岸部

冬は温暖で、
晴天が多い。



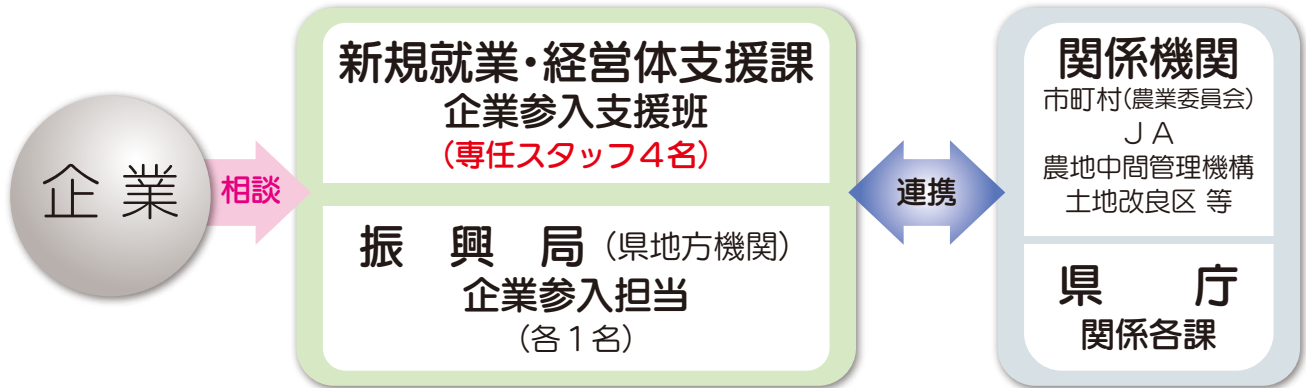
施設園芸 (いちご、こねぎ、にら等)
かんきつ類





大分県の支援体制

大分県では参入相談から栽培開始まで、専任スタッフがワンストップで対応します。



農業参入の手順

参入構想シートはこちらから→



参入相談

「なぜ農業に参入するのか、どこで、どんな作物を作るか」など、参入目的と自社の目指す農業の姿をしっかりと描きましょう。
県ホームページに参入エントリーシートを掲載していますので、ご活用ください。

農地の確保

気象、圃場条件、利便性などを考慮し、栽培品目や参入構想に合った農地を探しましょう。
候補地が決まれば農地中間管理事業を活用するなどして手続きを行います。

経営計画の作成

参入構想を具体化するため、売上目標、初期投資額、必要な人材、収支を数値で整理しましょう。
農業は天候不順等の影響を受けやすい事業です。リスクを考慮した資金計画を作成しましょう。

施設整備

農業用ハウス、機械等の設備投資には多額の費用を要します。
設備投資への補助や低金利融資制度の活用を希望する場合には、早い段階から関係機関との協議が必要です。

栽培技術の習得

農業経営を成功させるには、栽培技術の習得が不可欠です。
誰が、どこで、どのように栽培技術を習得するのか、明確に決めましょう。

栽培開始

実際に営農を始めると想定外のトラブルが起こることもあります。先輩参入企業や地域の農業者など複数の相談相手を見つけておきましょう。
大分県では普及指導員約200名が栽培技術・経営のバックアップを行っています。
また、地域住民との信頼関係構築のため、圃場は丁寧に管理し、地域の共同作業には積極的に協力することが重要です。



農業参入ステップ1 品目選定

農業参入の第一歩として、目指す農業経営に合った品目や自社の強みが活かせる品目、参入地域に適した品目を選定することが重要です。

大分県や各市町村が推進している主な品目を紹介しますが、その他の品目でも参入は可能です。



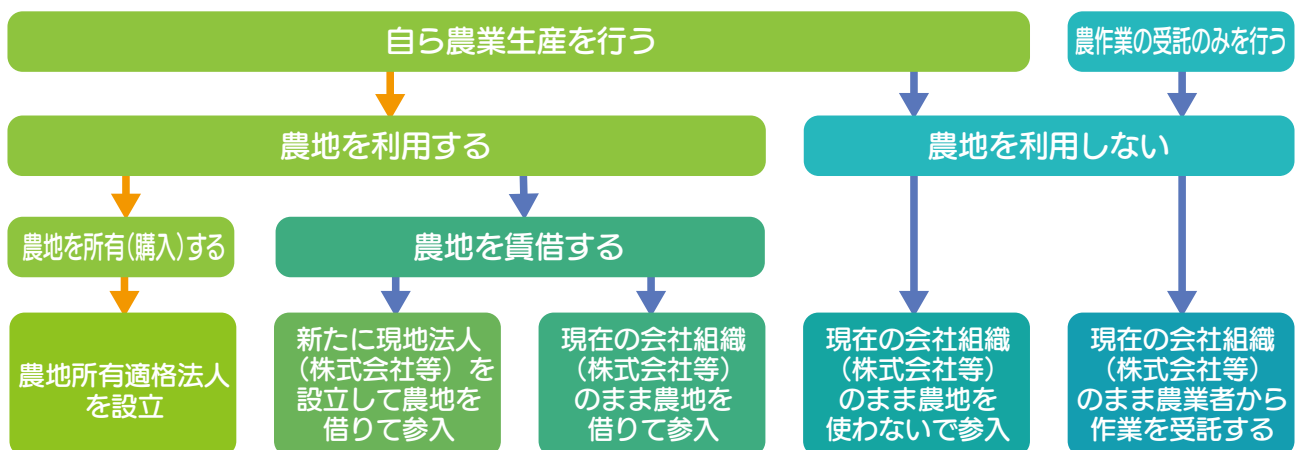
農業参入ステップ2 農地の確保

企業が農業参入する場合、農地を借りて営農するのが一般的で、現在の会社組織のまま農業を始めることも可能です。

ただし、農地を所有（購入）する場合は農地所有適格法人の要件を満たす必要があります。

大分県では農地バンク（農地中間管理機構）や市町村、農業委員会と連携し、農地探しをサポートしています。

参入形態の選択



※農地所有適格法人とは農地の権利を取得して、農業経営を行うことのできる法人のことです。農地所有適格法人は農地法に定める一定の要件（法人形態、事業内容、議決権、役員要件等）を満たす必要があります。

参考

企業向け農業経営モデル

大分県が企業向けに推進している品目の一例です。

白ねぎ

10ha



■品目の特徴

- ・単一品目で周年出荷が可能
- ・年間を通じて需要・単価が安定
- ・県内の主な産地：豊後高田市、豊後大野市

■初期投資額

37,000千円 ※補助事業を活用した場合
(トラクター、管理機、収穫機、育苗施設、作業場、倉庫・トラック等)

■必要人員

常勤 5名 パート 15~20名

■経営収支

(単位：千円)

売上高	78,000
生産原価	57,000
販売・一般管理費	17,000
経常利益	4,000

■収穫期間

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

ベリーツ(いちご)

1ha



■品目の特徴

- ・高単価・輸入が少ない
- ・施設整備が高額
- ・栽培技術が高度
- ・県内の主な産地：杵築市、佐伯市、宇佐市

■初期投資額

145,000千円 ※補助事業を活用した場合
(栽培用ハウス・高設ベンチ、育苗施設、作業場、予冷库等)

■必要人員

常勤 2名 パート 10~20名

■経営収支

(単位：千円)

売上高	69,000
生産原価	50,000
販売・一般管理費	15,000
経常利益	4,000

■収穫期間

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

ピーマン

30a



■品目の特徴

- ・初期投資が比較的少ない
- ・出荷期間は5~10月
- ・冬期は作業が少ない
- ・県内の主な産地：臼杵市、豊後大野市

■初期投資額

10,000千円 ※補助事業を活用した場合
(ビニールハウス、トラクター等)

■必要人員

常勤 1名 パート 4~5名(収穫時期)

■経営収支

(単位：千円)

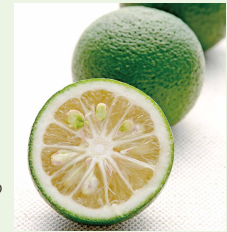
売上高	13,000
生産原価	7,400
販売・一般管理費	4,600
経常利益	1,000

■収穫期間

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

かぼす

10ha



■品目の特徴

- ・加工用を中心に需要が伸びている
- ・栽培技術が比較的容易
- ・植栽から成園化まで5~6年かかる
- ・県内の主な産地：臼杵市、竹田市

■初期投資額

63,250千円 ※補助事業を活用した場合
(造成費、獣害防護柵、乗用防除機、乗用草刈機、トラック、倉庫等)

■必要人員

常勤 2名 臨時雇用 10名(収穫時期)

■経営収支 青果用の場合

(単位：千円)

売上高	54,000
生産原価	23,000
販売・一般管理費	21,000
経常利益	10,000

■収穫期間

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

※この経営モデルは技術レベル上位2割の経営体を想定して作成したものです。実際の営農では技術レベル、天候、市場相場、コスト変動等の影響を受けて、収支が変動する可能性があります。



農業参入ステップ3 施設整備（農業制度資金と補助事業）

選択する品目によっては、高額な設備投資が必要となる場合があります。大分県では初期負担の軽減のため、低金利の融資制度や補助事業を設けています。

ただし、活用には様々な要件がありますので、詳しくは関係機関にご相談ください。

農業制度資金

農業経営基盤強化資金（スーパーL資金）

■対象者	認定農業者等
■資金用途	農地・施設・機械・運転資金等
■貸付限度額	法人10億円
■償還期間	25年以内
■利子補給(助成)	後の貸付利率 0.16~0.30% (R4年4月現在)

農業近代化資金

■対象者	認定農業者、参入法人等
■資金用途	施設・機械・運転資金等
■貸付限度額	法人2億円
■償還期間	7~15年
■利子補給(助成)	後の貸付利率 0.16~0.30% (認定農業者の場合)

※融資機関による審査に加え、融資額や事業計画内容により市町村や県等による審査があります。

補助事業

おおいた園芸産地づくり支援事業 ①県単活用型

■事業内容	・栽培施設整備(ハウス等)、生産基盤整備、機械導入、・新植・改植(果樹・茶)・鳥獣被害防止柵等、・栽培施設移築、補修
■補助率等	1/5~2/3 *品目、事業内容により補助率が異なる。*補助上限あり

おおいた園芸産地づくり支援事業 ②国庫活用型

■事業内容	・栽培施設整備(低コスト耐候性ハウス及び付帯施設等)・生産基盤整備、機械リース等 ※活用国庫事業：産地生産基盤パワーアップ事業等
■補助率等	1/2~3/4 *品目、事業内容により補助率が異なる。*補助上限あり

企業等農業参入推進事業(県単)

■事業内容	①遊休施設利用促進対策(遊休施設等の改修) ②汎用機械等整備促進対策(トラクター、格納庫等) ③基盤整備等支援対策(水利施設、農地造成、鳥獣害防止柵等)
■補助率等	1/2(県1/3、市町村1/6) *目標売上高1億円等の要件あり *補助上限あり

農地耕作条件改善事業

■事業内容	区画整理・暗渠排水・客土・除礫等
■補助率等	地元負担0~15%

水利施設等保全高度化事業

■事業内容	区画整理・暗渠排水等
■補助率等	地元負担7.5~12.5% 集積率により負担ゼロ可能

※補助事業の活用には様々な要件があります。要件を満たす場合でも予算の範囲内で優先順位をつけて採択されるため、補助金の交付を受けられない場合があります。

※補助事業の活用には事業実施前年度以前から市町村の予算化などの準備が必要です。

※補助事業の内容、要件、補助率は年度によって変更される場合があります。

農業参入ステップ4 栽培技術の習得

主要品目の栽培技術習得を支援する研修制度(就農学校・ファーマーズスクール)が県内各地に整備されており、参入企業の役員、従業員も研修を受講することができます。

杵築市	ベリーツ(いちご)、花き、ハウスみかん、なす+スナップエンドウ	竹田市	トマト、ピーマン、ミニトマト
国東市	こねぎ、水耕野菜、ミニトマト、七島イ、キウイ、ベリーツ(いちご)	豊後大野市	ピーマン
日出町	ハウスみかん	日田市	梨、えのぎ、チンゲンサイ、ぶどう
大分市	ピーマン、にら、パセリ	九重町	トマト、椎茸、梨
臼杵市	ピーマン、有機野菜、ベリーツ(いちご)	玖珠町	ピーマン、白ねぎ、トマト、きゅうり
津久見市	サンクイーン(柑橘)	中津市	梨
由布市	梨、ベリーツ(いちご)、ねぎ	豊後高田市	白ねぎ、ぶどう、施設花き、肉用牛、カボス+その他柑橘
佐伯市	ベリーツ(いちご)、施設柑橘、施設花き、にら、有機野菜	宇佐市	こねぎ、ぶどう



企業の農業参入相談窓口

大分県 農林水産部 新規就業・経営体支援課 企業参入支援班

所在地：大分県大分市大手町3-1-1（大分県庁本館9階）

TEL：097-506-3587 FAX:097-506-1758

E-mail：a15270@pref.oita.lg.jp

大分県 農業参入

検索



<https://www.pref.oita.jp/site/sannyu/>

県内地方機関の農業参入相談窓口

大分県東部振興局 就農・参入支援班

管轄市町村／別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町

国東市国東町安国寺786-1

0978-72-0409

大分県中部振興局 就農・参入支援班

管轄市町村／大分市、臼杵市、津久見市、由布市

大分市府内町3-10-1（大分県庁舎別館内） 097-506-5795

大分県南部振興局 企画・農政・就農班

管轄市町村／佐伯市

佐伯市長島町1-2-1（佐伯総合庁舎内）

0972-24-8645

大分県豊肥振興局 就農・参入支援班

管轄市町村／竹田市、豊後大野市

竹田市大字竹田字山手1501-2

0974-63-1172

大分県西部振興局 就農・参入支援班

管轄市町村／日田市、九重町、玖珠町

日田市城町1-1-10

0973-22-2585

大分県北部振興局 就農・参入支援班

管轄市町村／中津市、豊後高田市、宇佐市

宇佐市大字法鏡寺235-1

0978-32-1621